

福井公共交通ネットワークの未来は？

20170520 in AOSSA



【総会】



【討論会】

関連記事：2～6P

撮影：林 照

☆☆活動報告☆☆

5月11日 ROBA 5月例会・理事会
20日 ROBA 定例総会・記念討論会
6月8日 19:00～20:00
カーフリーデー2017 第1回実行委員会
8日 20:00～21:00 ROBA 6月例会・理事会

☆☆今後の予定☆☆

6月18日（日）さばえ環境フェア
7月13日（木）
19:00～20:00 CFD2017 第2回実行委員会
20:00～21:00 ROBA7月例会・理事会

Wacky's 一押し CD その13

アル・ジャロウ 「ジス・タイム」

中年の新人と言われながら、瞬く間にジャズボーカル界の最高峰まで上り詰めた人が「アル・ジャロウ」です。アルの歌い方は、一種独特で、まるでパーカッション（打楽器）のようです。その彼が、敏腕プロデューサーの「ジェイ・グレイドン」と組んでつくった傑作がこの「ジス・タイム」です。ジェイは、ギタリストとしてもユニークで素晴らしい演奏をし、まさにミュージシャンズ・ミュージシャン（演奏家が参考にする人）と言えます。アルの歯切れよい歌声を引き立てる、メリハリの利いたジェイのリズムカッティング、絶妙の組み合わせです。

本アルバムのお薦めは、ジャズ・ピアニストの中でも卓越したリズム感の持ち主「チック・コリア」の名作「スペイン」のボーカル版につきます。チックの素晴らしい曲のノリをさらに強力にしたアレンジ、初めて聴く人はびっくりするはず。何とんでもドラムも、ジャズ・フュージョン界の大御所「スティーブ・ガッド」ですから。スティーブのカウベルを駆使したドラミングにも注耳してください。（実は、この曲、筆者も若き日にバンドでチャレンジした曲なのです。難しかったな～。）まだまだ現役バリバリだったのに、アルは、天に召されてしまいました。合掌。

ROBA2017年 定例総会記念討論会を終えて

進行役を務めました内田佳次

平成29年5月20日（土）、総会終了後13:30に始まりました。

本年の総会記念の取組として、これまでの講演会方式でなくROBA会員も参加できる双方向の内容にしようと、討論会方式を考えました。また、私自身“並行在来線”について勉強不足なので、多くの人の話を聞いて勉強をしたいという思いでいました。そこで、話題提供者として7人（①富山大学・中川氏、②福井大学・川本氏、③福井工大・三寺氏、④京都大学・松原氏、⑤福井県議・井ノ部氏、⑥金沢LRT・今度氏そして⑦福井県並行在来線対策室・平林氏）の豪華なメンバーに登場していただき、並行在来線とまちづくりをキーワードに自身が考える切り口で話題提供をしていただき、討論を進めました。

話題提供は1人10分という短い時間の制限の中で、ほんとうにコンパクトにかつ分かり易く説明をいただきました。短い時間故に、要点を簡潔に伝えなければならないという状況が生まれたせいも、時間配分を考えていただき時間どおりに進行できました。

いちばん印象に残っていることは、中川先生の「これまでJRという一民間の鉄道会社の経営であった鉄道が地域のための鉄道になる、地域のみんなの考え方で変えられる鉄道に変わる」という点です。また、「便利なものを提供すれば乗ってくれるということを認識すべき」ということでした。並行在来線問題というが、“問題”ではない絶好の“チャンス”なのでしっかり盛り上げていかなければなりません。

そして多くのみなさんが唱えていたのが、福井県内の運輸連合（総合交通）+まちづくり、北陸3県での連携（一体的に経営）が今後の課題だとお話しされていました。

これからも、県民多くの議論となるようROBAが主導して行かなければならないと感じた次第です。

会場には事前の予想を上回る70名相当の来場があったようで、並行在来線の関心の高さが窺い知れます。討論会終了後には懇親会を開催し、2次会でさらに熱い討論が繰り広げられていました。

総会・討論会を終えて

鳥居 健

先日の総会と討論会の感想ですが、毎年のことながら、出席者の数がギリギリで総会成立条件の確認に手間取っています。確実に出席の返事をいただけるように、例えばメール配信の方法を工夫できないか、今後考えていく必要があると思います。

今回は例年の講演会から討論会に模様替えしたため一般の聴衆がどの程度来られるのかわからない面もありましたが、ほぼ満席の盛況でありがたいことでした。並行在来線の話は新聞やテレビでも頻繁に取り上げられるため、結構関心が高かったのだと思います。

新駅の設置を並行在来線の開業に間に合わせるには、今から具体的な計画を決めて動き出す必要があることや、新会社の社名も考える時期に来ていることなど、興味深い情報も得られて大変有意義な一日でした。

福井の公共交通ネットワークの未来を考えよう

～新幹線・並行在来線・LRTのネットワークをどうつなぐ？～

メモ文責：林 博

あいさつ：内田

新幹線、並行在来線の議論を始めよう！

情報提供1：平林

- ・H25.3協議会を設置して、スタート
- ・北陸本線の役割、19000人の75%通勤通学、県外との行き来も石川1720人
- ・需要予測は、H45年に14%減少、利用者の拡大、利便性の確保が必要
- ・H35開業に向けて、石川富山より1年早く、本年度に経営基本調査開始：えち鉄、福鉄とのネットワークを検討するため早く方針を出す
- ・地域公共交通ネットワークの拡充を検討したい
先行して、春夏周遊バス、ICカード発行、永平寺線の自動走行、あわら温泉電気自動車でカーシェア、3月公共交通フェスタ、えち鉄福鉄相互乗り入れ1年、ノリトクでハピリンなどでの割引などを実施

情報提供2：中川

- ・地域交通改革の絶好の機会：地域の鉄道としてみんなで考えみんなでやっていけ、増便も可能
- ・従来の並行在来線は金の問題、貧困な政策だった：地域の公共交通ネットワークの将来に向けて考える機会と考え、発想を変えよう、県の方針もこの方向のようで、それで進めていこう
- ・移行へのプロセスに対する矛盾や不備を是正すべき：矛盾は、貸付料の決定はJRの収支で決められており変えていくべき、不備は、地域経営で頑張った分が還元されるルールを作るべき
- ・いいサービスを提供すると、利用者が増えているので頑張ろう：福井県は十分な需要があるので可能性がある、ポジティブに進めていこう

情報提供3：川本

- ・商工会議所はH26.3および28.3に報告、4つ御戦略と111の取組アイデア
- ・地域を支え、地域に愛される鉄道、地域の鉄道

として考えていこう、

- ・ICカードで、乗り換えをスムーズに、インバウンド対策で多様なサービス
- ・定時運行、パターンダイヤ
- ・広域連携、県外との快速運行
- ・沿線まちづくり、住まうところを駅周辺に、働くところも駅周辺に
- ・新駅：大願寺に新駅、
- ・連系：花堂で越美北線を福鉄に乗り入れ
- ・クルマとの連携、融合：カーシェアなども

情報提供4：三寺

- ・都市デザインとして考えてみたい
- ・えち鉄：地域と共生しながら立直しをはかった
- ・福鉄：再構築事業で立ち直し
- ・えち鉄の価値認識：利用者への直接便益以外に利用可能性もたらす、存在そのものの価値
- ・並行在来線は3つ目の地域鉄道に仲間入り
福井版の運輸連合や交通連合をつくろう
誰がイニシアチブをとるのか
都市デザインと都市経営の感覚
公共の関与の在り方重要

情報提供5：松原

- ・長野：収益の高い部分をJRが運営
- ・新潟：直江津までは並行在来線だが、ほかの線と分断
- ・富山：城端、氷見線が分断、単独運行
- ・石川：七尾線が分断
- ・並行在来線の課題と福井への教訓
 - ・地域初乗り運賃がそれぞれで取られて割高
 - ・本線と視線の分断、県境で分断、新駅が不便
 - ・10両停まれる駅に2両編成運行
 - ・垂直在来線の活かし方
 - ・積雪などで活用チャンスは多い
- ・東京VS福井ではかなわないが、東京VS福井・金沢・富山だと対抗できる

討論会参加者自己紹介

井ノ部：・ダイヤ：貨物調整金制度：自由度を奪

っている、広域輸送機関（3県）としての機能保持：広域交流、えち鉄福鉄のすみわけと連携

・プロモーション：地域で愛され、利用される観光、企画など全国から注目、インハウンドのきっかけ海外向け、フリーキップで地域サービス（江ノ電とタイ）

・経営体：県域を越えて3県の一体経営（それぞれの予算化、議会対策）：実績ある民間事業者の参画（たま、京都）、県内の経営統合でスケールメリット、利用者ニーズを最大限に反映する経営、JR時代を凌駕できるサービスの提供

今度：・金沢LRT計画の中で地域の交通ネットワークを考えている

・新幹線効果が想定をはるかに上回っている
想定にたいして、観光客12倍、特急からの転換3倍、経済効果5倍

・東金沢利用者増：80万⇒103万人

・LRT（またはBRT）の議論が始まった、LRT議連が立ち上げ予定

・金沢 - 敦賀開通の影響への期待と不安

清水：・えち鉄福鉄を含めた連携の制度設計必要、乗入れ、ダイヤ連携

・県境を越えた連携

林：・MAPのように、みんなの中にネットワークが意識されるようにすべき

・トラムトレインの走る交通連合規模のイメージは北陸3県規模

岸本：・福鉄通勤に定年後切り替えたが、沿線住民にとって貴重な交通機関

・敦賀 - 北陸トンネル間が交直両用区間：電車コストは下がってきているが、他と異なる

円卓討論会

●福井県内の3路線の交通連合による利用者サービスの提供は可能か

九頭竜線を含めたサービスを考えて

●3県の広域連合・連携によるJR時代のサービ

スを落とさない方法は可能か

・運輸連合は国ではまだ設計できていない、地方から、このような議論から発信する必要がある

・相互乗り入れなど、福井の事例としては画期的で、全国に発信すべき

・電車の確保など、制度設計が必要

・運輸連合は、利用者からの関心は、どのように使いやすいか、

・乗入れでは、九頭竜線、JRが三国まで行くという議論がなされていた、

・連合の中で自治体の連携の仕方がかなり大変

・利用者推計でなく、バックキャストで、こう使わせたいその利用者はと、逆にやる手法もある

・運輸連合はまちづくりの視点で、それをつないでいく。県全体、北陸全体で。

・利用者の要求は、行きたいときに行きたい所へ

・三セクがそれぞれ立ち上がってしまっているので、あとで合併は難しいので、やるならなるべくはやく取り組む

・まちづくりの価値を議論し、ネットワーク化したらどれだけ価値が高まるか詰めておくべきだ

・上下分離は各県で持ち、運営会社は3県で一緒

・利用者が、利用するときにバリアを感じないことが重要、阪神、阪急が経営統合してそれぞれの電車を走らせるが、乗継には抵抗を感じない

・現状では、既存の2社で富山石川の乗り入れをしているが、石川との乗入れは調整を開始した

・北陸は便利にすればもっとのってくれる地域なので、便利なものを運行して、まちづくりも連携していくべきで、利便性を高める必要あり、

・海外では、国境を越えたダイヤを優先させて、各地区のダイヤを作る、という手順で作る

・コンセプトをまず合わせておくこと

・運賃統合をすることによる社会的便益を高める方向で議論すること

・3県連合の時、関西中京との連携も重要、敦賀乗り換えをスムーズに

・敦賀から滋賀湖西線の並行在来線との連携も

今年度の総会が無事終わりました。

今年も無事に総会を終えることができました。みなさまのご協力をいただきありがとうございました。

現在は会員が 44 人となっています。総会出席が 15 人、委任状 10 人でした。また議事については誤字訂正等の軽微内容を除き、すべての項目について議決していただきました。

【議事に関する意見】

① ROBANEWS 郵送について

意見：近年は郵送が遅れているため、WEBで見られる人と見られない人の確認を行い、見られない人には郵送した方がいいのではないか。

回答：WEBの状況は確認し、NEWSの発送は検討する。

② 福井市の森田地区でコミュニティバスについて

意見：地区で運行協議会が始まったので、ROBAの支援をいただきたい。

回答：ROBAの事業に「県内各地のホジロバまちづくりキャラバン」があるので、コミバス等の支援を追加し、協議会等への参加を検討したい。

(感想)

○総会では、出席されたみなさんの近況や、普段感じている事などを聞きたいなと思っているのですが、総会終了後は速攻で講演会準備に入るため、毎回ゆっくりとした時間も取れず、バタバタと1日が終わってしまいました。来年…は難しいと思いますので、20周年にはゆっくりとした時間の中で、近況を聞きたいと思っています。

○ここ数年、ROBANEWSの発送が追いつかなくなったり、催事の準備不足だったり、事務局の不備が目立っているのかも知れません。しかし、温かく見守ってくださって、本当にありがとうございます。

○ROBAは平成12年2月にスタートして、今年で17年目に突入しました。ついこの間、10周年だったと思ったのに、もうすぐ20周年になるのですね。事務局の日常的な不備は否めませんが、発足当時と変わらずに事業を続けている事は凄いと実感しました。



討論会「福井公共交通ネットワークの未来を考えよう」



去る2017年5月20日(土)、ROBAでは、AOSSA7階においてROBA2017年定例総会記念討論会「福井公共交通ネットワークの未来を考えよう」を開催した。北陸新幹線が敦賀まで2023年春に開業するが、同時に北陸本線が並行在来線として地域鉄道になる。それに合わせえちぜん鉄道・福井鉄道・バスを含めた地域交通ネットワークの新たな体系を構築しなければならない。ROBAではこれまで、並行在来線を含めた地域公共交通ネットワークをどのように整備していくことが福井にとって最も好ましいのかについては十分な議論ができていなかった。そこでこの度、総会の記念イベントとして地域交通を考える討論会を開催した。15年前、ROBAはえちぜん鉄道発足に向け、多くの会員が集まり、議論して「公共交通活性化アイデア集」を作成し行政・議会・市民に訴えた。今般、「公共交通活性化アイデア集パートII」の意味も込めて、福井の公共交通ネットワークの将来、特に並行在来線をどう活かすのかについて、富山大学副学長・京都大学名誉教授の中川大先生を再びお招きし、学識経験者や議員、他の地域のNPOのメンバーとしても活躍するROBAメンバーなどが、新幹線時代の福井における公共交通ネットワークのあり方について活発な議論を展開した。追ってテープ起こしを行って要旨をまとめた。



社会実験再び！？



去る6月3日(土)・4日(日)に、ハピテラス・駅前電車通り・中央公園で開催された「花花フェス」に行って参りました。目的はこれ。駅前電車通りの状況がこの通り。派手な告知はなかったのですが、ある意味、2001年にここで行われた「トランジットモール社会実験」よりもトランジットモールの社会実験としてずっと進歩している印象を受けました。軌道の仕切りが軽快なものに変わっています。今回は「電車を止めない」という条件で駅前電車通りでイベントを開催していたのですが、これは結構見ものでした。(清水)



怪速! by.うら哲 路面ライナー



作/漆崎 耕次

ぜんちゃんの、どうでもいいおはなし その2

あーらよ、出前一丁~!



高岡の善光です。さて、出番が回って来ました。鉄道や交通に関する難しく、専門的な話題を提供します。

今回の話題は、“出前一丁”です。おいしい、交通と関係ないじゃない! ..いいじゃん! みなさん出前一丁はご存知ですよ? 有名なインスタント袋麺。この出前一丁、香港でも大好評らしく、現地では何と17種類も販売されております! そこで、これらを全て取り寄せて食べてみました!

袋のデザインは、日本のそれと似ていますが、色は奇抜。紫、緑、黒...。多分、麺は同じなのでしょうが、スープは全て違う味! 日本人の口にも合います! そして各スープには適した具材がある様で、袋には調理例の写真が載っています。全種、それぞれ全ての具材を買い集め、その通りに作ってみました! ほとんど自己満足の世界ですね。さすがグルメ会員の私...。

そういえば、香港って二階建ての路面電車が有名ですよ。一時期、存廃問題もあったらしいですが、住民の要望や、香港のシンボリック的存在で観光客にも大人気と言う事で、今も元気に走っている様です。飛行機に乗るのが怖くて、まだ日本から脱出した事のない私ですが、香港の路面電車、乗ってみたーい! 夢は高岡に二階建ての電車を走らせる事(笑)。...って、強引に鉄道の話に持ち込む(汗)。

編集後記 ...編集委員より一言

内田(発行責任者)

「総会を終えて、また新しい年度の始まりです。公共交通活性化アイデア集パートII を作成したいです。」

林(変集長)

「秋ごろ、音楽ライブの予定です。『ふるさと電車に乗って』を歌うかも? 場所は田原町駅もいいかも!」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>